

評価年月日 平成 29 年 8 月 18 日

研究所名 畜産センター

[完了評価]

課題名 デュロック種系統造成試験 (平成 23～28 年度)

【課題の概要】

養豚を取り巻く情勢は、急速なグローバル化の進展による輸入豚肉との競争に加え、国内の他産地との競争も激化していくと予想されている。その様な背景を受け、本県の養豚農家から「高品質で差別化が図れる豚肉生産」が求められているため、肉質への影響が大きいデュロック種の系統造成を実施した。

系統造成は、平成 24 年度から閉鎖群により一年一世代で行った。平成 28 年度の第 5 世代で完了し、平成 28 年 12 月に、(一社)日本養豚協会から「ローズ D-1」として系統豚の認定を受けた。

系統造成の選抜形質と改良目標は、雄の 1 日平均増体重(DG)を 1,000g, 飼料要求率(FCR)を 2.9, 筋肉内脂肪含量(IMF)を 5.0%とした。また、雄として長期間使えるように肢蹄の強健性についても考慮して選抜を行った。第五世代の選抜豚(雄 17 頭, 雌 46 頭)の成績は、DG が 964 g, FCR は 3.01, IMF は 5.12%であった。IMF は目標の 5.0%に到達し、霜降りが入る豚肉生産が可能となった。

「ローズ D-1」の普及に向け、養豚農家への安定的な供給体制を整備するとともに、本系統豚を活用した新たなブランド豚肉を確立できるよう行政、関係団体、生産者と検討を進めている。

【評価結果】(評価委員数 4 名)

○各項目の評価(各評価委員の平均点)

研究目標の達成度 ・副次的効果	成果の意義・波及効果	成果の普及	合計点
4.8	5.0	5.0	14.8

○総合評価 5 : 良好

(1 : 不良 2 : やや不良 3 : 普通 4 : やや良好 5 : 良好)

【委員の意見・助言と対応策】

評価項目	意見・助言	
研究目標の達成度・副次的効果	・一部の形質については当初の目標を下回ったが、IMFなどそれを補う効果が期待できるため十分目標を達成できたと判断する。	
成果の意義・波及効果	・県産畜産物のブランド強化に貢献できる。	
成果の普及性	・ブランド化に向け、確実に系統豚として普及活用されるものと考えられる。	
総合評価	意見・助言	対応策
	・優良な種豚が造成できたので、一刻も早い普及と新ブランド化に着手していただきたい。 ・新ブランド化のため、脂肪含量の高い豚肉の安定生産のための飼養技術の確立を併せて期待する。	・「ローズ D-1」は平成 29 年 11 月から農家への普及が始まっており、今後も安定的に供給できるよう系統豚の維持・供給に努める。 ・新ブランド豚肉は、販売開始(H32)に向け、「新ブランド豚肉確立研究会」において、生産者と共に筋肉内脂肪含量が高い豚肉の生産基準や流通・販売方法の検討を進めているところである。 ・飼養技術の確立のための試験を実施中である。